

東北ブロック内血液センター・献血ルームのご案内

青森献血ルーム

弘前献血ルームCoCoSA

青森県赤十字血液センター

〒030-0966
青森県青森市花園2-19-11
TEL.017-741-1511



岩手県赤十字血液センター

〒020-0831
岩手県盛岡市三本柳6-1-6
TEL.019-637-7200



もりおか献血ルームメルシー

日本赤十字社東北ブロック血液センター

宮城県赤十字血液センター

〒981-3206
宮城県仙台市泉区明通2-6-1
TEL.022-290-2501



社の都献血ルームAOBA

献血ルーム アエル20

いわき出張所

郡山駅前献血ルーム

秋田県赤十字血液センター

〒010-0941
秋田県秋田市
川尻町字大川反233-186
TEL.018-865-5541
(1階に献血ルームを併設)



アトリオン献血ルーム

山形県赤十字血液センター

〒990-0023
山形県山形市松波1-18-10
TEL.023-622-5301



献血ルームSAKURAMBO

福島県赤十字血液センター

〒960-1198
福島県福島市
永井川字北原田17
TEL.024-544-2550
(1階に献血ルームを併設)

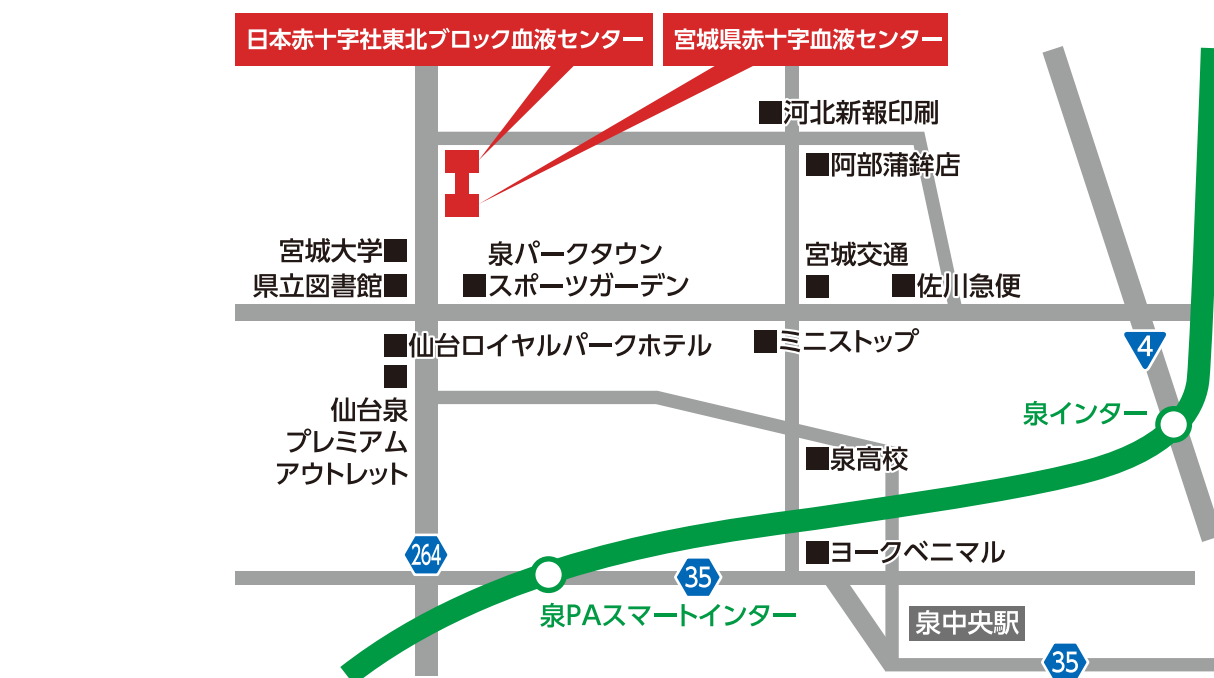


～ 献血はご予約で ～

有効期間のある輸血用血液製剤を医療機関からの需要に応じて確保していくために、また、献血される方が一時期に集中することによる密集や密接を避けるため、献血のご予約をお願いします。
ぜひ、献血Web会員サービス「ラブラッド」でご予約のうえ、献血会場にお越しください。



▲ご予約はこちらから▲



東北自動車道
泉IC

所要時間 約10分 (4.0km)

東北自動車道
泉PAスマートIC

所要時間 約20分 (6.5km)



仙台市営地下鉄
泉中央駅

所要時間 約20分



③番
乗り場

泉パークタウン車庫前行
又は テクノヒルズ東行

宮城交通バス 約35分

血液
センター前
下車

徒歩
1分

東北ブロック血液センター



日本赤十字社 東北ブロック血液センター

Japanese Red Cross Society Tohoku Block Blood Center



日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

東北861万人*の安心・安全のために。

日本赤十字社は、輸血用血液製剤の「安全性の向上」、「安定供給の確保」及び「事業運営の効率化」を図るため、全国7か所(北海道・東北・関東甲信越・東海北陸・近畿・中四国・九州)にブロック血液センターを設置し、各ブロック内の血液事業を統括管理する広域的な事業運営を行っています。

東北ブロック血液センターでは、東北6県(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島)で献血いただいた、年間約35万人の血液の製造、検査、保管・分配を行っています。

これからも東北の皆様がいつでも安心して安全な輸血を受けることができるよう、輸血用血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保に努めてまいります。

血液のゆくえ



検査

私たちが見ているのは検体のその先、輸血を受ける患者さんの笑顔

安全な輸血用血液製剤を医療機関へ供給するために、血液型検査及び感染症関連検査を実施しています。また、献血者の皆様の健康管理に役立てていただくため、生化学検査及び血球計数検査を行い、結果を希望者へお伝えしています。

このほか、より安全な輸血を行うために、東北6県の医療機関からの依頼を受け、患者さんのHLA(ヒト白血球抗原)型などの血液型関連検査への協力も行っています。



製剤

この血液の重さは、
献血してくれた皆様の思い、輸血を待っている患者さんの思い

現在の輸血医療は必要な血液成分(赤血球、血漿及び血小板)のみを輸血する成分輸血が主流のため、東北6県で献血いただいた血液を、成分ごとに分けて調製します。調製後は、検査結果と照合し、すべての検査項目に合格した血液のみが輸血用血液製剤と血漿分画製剤の原料となります。

調製の過程において、輸血に伴う発熱などの副作用を防止するための白血球の除去や、輸血後GVHD*²予防のためのX線の照射を行っています。



保管

安心・安全な輸血用血液製剤を安定的に東北6県へ

輸血用血液製剤を血液型別、種類別に適切な管理の下で保管し、東北6県の血液センター間で在庫の過不足の調整を行い、各センターに分配します。県の枠を超えて広域的な管理を行うことにより、患者さんが必要とする輸血用血液製剤を安定的に供給できる体制を整えています。



*² 輸血後GVHD(Graft Versus Host Disease：移植片対宿主病)

輸血した血液中のリンパ球(移植片)が患者さん(宿主)の細胞を「異物」として攻撃する、致死率の高い病気です。

*東北861万人とは、令和2年国勢調査 人口等基本集計に基づく値です。